

令和5年度 名古屋市まち・ひと・しごと創生・SDGs推進会議  
の主な意見について

【委員1】

- ・ 中小企業になかなか人材が集まらず、入ったとしても2年、3年で辞めてしまい、企業にとっては大きな経済喪失、企業損失になっている。そういうところについて定着をできるような施策や、継続的にフォローができるような体制を要望したい。
- ・ 女性の活躍について、今後女性の労働力は絶対的に必要になってくる。そうするとやはり企業側としても、女性のための更衣室を作ったり、お手洗いを作ったりと、費用的な負担もかかってくると考えられる。そういう面で、中小企業の声聞いていただきたい。
- ・ 認定企業について、企業としては一定の条件をクリアした資料を出すと思うが、そこで働いている人たち一人ひとりが、本当に納得する環境なのか。生き生きとして働ける職場なのか。資料だけではわからないこともあると思うので、そこを見てほしい。

【委員2】

- ・ 成果指標について、コロナ禍ということもあり、観光面でD判定のものが目立っている。こうした状況でなかったとしても、名古屋市には素晴らしい観光資源があるにもかかわらず、それをうまく広報できていないといった課題がある。国内外に名古屋市の魅力を発信できていないために、魅力に気づいてもらえていないと思うので、この点に力を入れて工夫すると思う。
- ・ 女性の活躍推進企業の認定について、就職活動中の学生は非常に重要視している。しかしながら、会社説明会の場などで、認定企業の社員から、女性の就業継続に積極的でない発言があり、落胆したという声を聞く。認定後の企業に対して、市からのフォローアップといったようなものがあるといい。
- ・ キャリア教育推進センター（仮称）や重層的支援体制の整備について、非常に期待をしている。実施して、手応えや反省なども出てきたかと思うが、ぜひそういったものを活かして、よりよいものにしてほしい。

【委員3】

- ・ 世界への魅力発信について、市は何をしているのか伝ってこない。やはり足りないと思う。

【委員4】

- ・ 観光総消費額が昨年度のDからCに向上しており、コロナが落ち着いた

こともあると思うが、市の施策がいろいろと効果を上げた結果だと思う。一方で、外国人宿泊者数について、愛知県は他の都市圏に比べ回復が伸び悩んでいる。愛知県と他の都市圏とで旅行者の性質や地域特性が違うなど、いろいろな原因が考えられると思うが、原因を分析して観光交流の推進に繋がるような施策を検討してほしい。またインバウンド客の多い東京や大阪がどんな対応をとっているのか、名古屋と何が違うのか、名古屋の独自性は何か、といったことも意識しながら、対策や取り組みを進めていくといいと思う。

- ・今年3月に閣議決定された観光立国推進基本計画では、観光地や観光産業の高付加価値などによる持続可能な観光地域づくり戦略などを掲げており、支援策も用意されているので、活用いただきながら取り組みを進めてほしい。
- ・交通に関して、いろいろな取り組みをしていただき、非常に心強いと思っている。一方で、交通や物流は、働き方改革や人手不足などの課題がある。交通や物流は、まちづくりやまち・ひと・しごと総合戦略等を進める上で基盤となるものだと思うので、課題解消に向け、公共交通や物流の活性化や連携、効果的な活用等の観点からの取り組みも続けてほしい。

#### 【委員5】

- ・成果指標の進捗がD評価となった指標の中で、「観光客の満足度」や「今の生活に満足している子どもの割合」については、市民の方の意識によるものと思う。今後、目標達成に向けて何を重点的にしていくのか、考えてもらいたい。
- ・国土形成計画の広域地方計画を策定するところで、名古屋市次期総合計画とよく連携し合って策定したい。

#### 【委員3】

- ・素人の意見で大変恐縮だが、子供に専門職教育をするのは良くないんじゃないかなという気がする。

#### 【委員6】

- ・コロナやエネルギー高騰対策のような、今この瞬間課題になっているもの、他方で、20年や30年以上かけて取り組むような少子高齢化とか環境問題のようなもの、タイムスパンを意識していくのが大事だと思う。
- ・産業政策を基礎自治体が行うことについては一定の限界があると思うが、基本は中心市街地や地場産業にフォーカスしていくことになると思う。名古屋市が力を入れているスタートアップについては、技術環境が大きく変わっていくイノベーションの中で、様々な新しい企業が期待されて

いる。東京や大阪も一生懸命やっている中で、名古屋地域の魅力をいかに切り出して訴えていくかが重要になるので、名古屋市だけでできる話ではないと思うが、産学官連携の中で市がどういう役割を担っていくかを考えてほしい。

- ・先の国会で通ったいわゆるGX法では、カーボンプライシングと水素・アンモニア等のこれまで使ってこなかったエネルギーの利用の2つが柱になっている。中部地域は、特に後者をどのようにしていくかが非常に大きな問題になると思うので、よく気をつけて、見ていってほしい。
- ・大阪・関西万博も産業活性化の一つの起爆剤になると思うので、うまく活用してほしい。

### 【委員7】

- ・成果指標の「昼間就業者1人当たり市内総生産」が下がっている点は非常に由々しき事態である。この地域は自動車中心の産業で、今後はEV化が不可避であると感じる中で、少しずつ相対的に競争力が下がらないか、或いは、今ある仕事が10年20年先本当にあるのか、といったところを懸念している。その中で、これまでのものづくりというものに付加価値をつけていただけるような、クリエイティブな思考或いはテクニクを持つような人たちに集まっていただくというような、いわゆるまちづくり的などころの要素も必要だと思う。いかにしてそういった方々を集められるかというようなことは少し意識しなくてはいけない。
- ・道路がしっかりと整備をされている都市部という特徴もあるので、すでにSRTにも取り込まれているが、新しいモビリティを積極的に取り入れて、社会実験も含めていろいろ取り組んでいるなどという都市のイメージを作っていければいいと思う。他都市と同じ領域で戦っても分が悪いところも出てくると思うので、都市としての特徴や産業としての特徴を活かせる領域で勝負していくのが重要だと思う。
- ・名鉄が熱田の周りの開発を発表されていたが、名古屋市も関わっていく部分があるのではないかと思う。そこは新たな、非常に大きな起爆剤になると思う。
- ・子育てをするなら名古屋というイメージができ上がるといい。その一つの特徴としてキャリア教育が活用できるならそれも一つの手かなと思う。他都市にない魅力で人を惹きつけるといったようなことが大事である。

### 【委員8】

- ・大人だけでなく学生向けの起業家育成事業にもしっかり取り組んでいってほしい。こういうことが都市の魅力づくりに大事だと思う。名古屋市が中部圏の中心都市という認識を一層持って、圏域全体がイノベーティブな圏域だというような理解が進むような取り組みを引き続き進めてい

ただきたい。

- ・子育てについてはかなり踏み込んだ、多様な施策をされてるんだらうと認識している。例えばカウンセラーの配置であったり、その辺は他都市に比べると多分相当進んでいると思う。ただ、それが知られてないということにやはり課題がある。子育てだけではなくて都市の魅力観光にも通じると思うが、ぜひそこのPRを強化していただきたい。
- ・コロナによる閉塞感により、子どもに対するアンケートの指標が高まってないのではないかと説明があったと思うが、アンケートの設問が間違えてるのではないか。コロナによる閉塞感を排除するような設問をしないと、むしろどこの部分に課題があってどこを改善していいのかが見えないと思う。効果が上がるヒントがそういうところから出るのではないかと思うので、そういう形でアンケートを活かしていただければと思う。

### 【委員 9】

- ・スタートアップエコシステムや地域経済を支える人材のところ、大企業や中小企業、小・中学生向けでは割と施策があるが、女性や外国人に対して、外国人の方に来ていただいたり、若年層の女性が関東圏に流出していることに関する施策が、細かく見れば入っていると思うが、単語として出てきてないので、あまり注視されていないのかなという印象を受ける。
- ・認定制度が意外と行き渡っておらず、せつかくの登録制度なので、行き渡る工夫が必要だと思う。また、中小企業だと認定制度の登録先が分かれていると負荷になるので、登録を一元化したプラットフォームがSDGsの登録制度とともにあるといいのではと思う。
- ・多様な保育サービスとあるが、ここの施策で見ると、どうしても企業で勤めている方が対象のように思う。専業主婦の方やこれから働きたい、或いは1度離職し就職活動している方に対する施策がすごく手薄である。正社員等で企業で働いている女性たちへの保育サービスの公的な金額と専業主婦層への公的な支援金額を比べると、専業主婦への支給総額は、企業などの育児休業を利用する人と比べて10分の1程度になると、日本経済新聞の記事で見た。専業主婦層はほとんど支援を受けていない。要は、子育て中は自分たちで何とかしなさいとなっている。多様な、と言った時に、認可外やベビーシッターは入っているのか。先ほど、妊婦のためのタクシー券というのがあったが、ああいった感じで会社で働いていない女性たち、これから産む家庭の方達へのサービス面も強調すると、子育てしやすいというイメージがさらに広がっていくと思う。

### 【委員 10】

- ・基本目標 4「高齢者がはつらつとしていい暮らせるまちへ」とあるが、名

古屋市として高齢者をどういう位置付けとして見ているのか。「元気な高齢者の活躍」とあるが、施策を見ていくと、福祉の受け手としての高齢者の施策は多いが、高齢者の活躍というのは少ないように感じる。国の統計になるが、全国平均で就業率を見ると 65 歳から 69 歳の就業率が 2022 年には 50%を初めて超えた。70 歳から 74 歳も 32%、3 人に 1 人が働いている。75 歳以上でも 10%働いているということで、実際に労働者として働いて税金を払っている担い手となっている。ところが高齢者だと体が例えば弱くなって、事故に巻き込まれたりするような恐れも実際にある。20 代と比べると何倍にもなっているという統計もある。そのため、福祉を受ける側の高齢者だけではなくて、実際にその活躍を支援する施策というものを、もうちょっと打ち出していきたい。

- ・ 在住外国人について、名古屋市の人口約 230 万人のうち、約 8 万 8000 人が定住してくださっている。人口が減っていくと、労働力がどんどん減っていき、産業界が困ると思うが、労働外国人にもっと来てほしいという話が高まる可能性があると思う。そういう意味では、外国人も住みやすい名古屋市であるというのをきちっと位置付けて、具体的な施策を打っていくというのは、今後の長い目で見ると非常に必要だと思う。

#### 【委員 1 1】

- ・ 令和 4 年度の実績がコロナの要因ということでいろいろ未達成になったと説明があったが、それはそれで仕方のないことかと思う。今年度以降の目標については、コロナを理由にマイナスの下駄を履かないように、高い目標を引き続き掲げてやっていただきたい。市内総生産が下がっているという話があったが、日本全体の実質 GDP の水準もようやく今年の年末で 2019 年の平均に戻ると感じるが、アメリカをはじめ主要国はとっくにコロナ前を超えている。ぜひ高い目標を引き続き掲げてやっていただきたい。
- ・ 最近の企業の動きを見てみると、自動車産業の EV 化や脱炭素化、或いは DX など、非常に大きな環境変化に対して多くの企業が非常にスピード感を持って対応し始めてるように思う。その一つの現れが設備投資にも出ていると思っており、日銀の短観の今年度の設備投資計画見ると、東海地区においても、製造業の中小企業で前年比 2 割を超える設備投資の計画になっている。今、原材料価格が上がり、企業の収益環境は決して楽観できない状況だと思うが、そういった中でも設備投資をやっていかざるをえないというか、やっていかないと競争力が確保できないということで、そういう動きになっていると思う。ぜひ行政の方でも中小企業に対するサポートのギアを、一段とスピード感をあげていただきたい。行政なら 1 年タームになるが、企業はもっと早い時間感覚で動いていると思うので、そういった意識でぜひやっていただきたい。

### 【委員 1 2】

- ・今すでに名古屋市が持っている財産の価値をしっかりと把握して、取りこぼしをしないということの重要性を強調したい。失われた 10 年と言われて久しいが、もうすでに 30 年、このままいくと本当に失われた 40 年となるが、成長がほとんど止まっている中で、さらにこの経済の状況を維持するとなると、今ある財産をいかに失わないか、維持していくかということに傾注していかなければいけないのではないかと思う。その時に一番思うことは、結局のところ人材だと思う。名古屋市は人口約 230 万ということもあり、全国的に見れば非常に大きい町ということもあって、いろいろな人材がいると思うが、本当にその人材を大切にしまっているかという問題だと思う。
- ・人材が部分最適になってしまっている。良かれと思ってやっているが、それでは全体最適ができますか、全体最適を見ているようなそういう人材をきちんと育てていますか、という問題もある。人材を育成することに加えて、それぞれの課題別、或いは端的に言えばアクター別の人材、それからアクター間、インターフェースというか接続、そこを図る人材をやはりきちんと育てていくことが必要になってくると思う。高齢者も非常に重要な人材になりうる。次の世代に自分のノウハウをきちんと伝えていく。そのことによって、若者が育っていくというような循環を作るシステムを作っていくことが大事ではないかと思う。

### 【委員 3】

- ・皆さん、お話の中にもあったが、全体的な印象としては、コロナで事業が非常に難しかったと思うが、非常によくやってらっしゃると思った。
- ・資料 1 の P26「戦略的人材マネジメントによる名古屋圏域の活性化」の事業概要に「…東京圏からの人材の流入促進及び若者の東京圏への転出抑制に寄与し、本市が名古屋圏域の人口ダム機能としての役割を果たすとともに、将来にわたり圏域全体の持続的な成長を目指す。」とあり、評価が「地方創生に非常に効果的であった」とあるが、非常に違和感を持った。名古屋圏は、ダム機能を果たさなきゃいけない。それ以上に全国から人が集積してくる地域でなくてははいけないはずだが、この資料 1 の最初にあるように、東京だけでなく大阪や九州にも出ている。これで流出抑制に非常に効果的だったといえるかどうか。そこはもう他に書きようがなかったということだと思うが、この評価はちょっとやっぱり甘過ぎないか、もう少し危機感があってもいいのではないかと思う。
- ・先日、高齢者の方がお集まりになって議論していた。わいわいがやがやと非常に楽しそうにやってらっしゃって、これは居場所を作ってらっしゃる、というふうに感じて楽しく思った。高齢者の方々の活躍する場と

して、居場所づくりは非常に大事だというふうに思う。

- ・アメリカのタイム誌の「世界の最も素晴らしい場所」の評価は、素直に受けとめるべきだと思う。確かに栄も良くなったし、名古屋駅はアジア、東洋で最大の駅だったわけで、今でも基本的にはそうだと思うが、やはりすばらしい機能がそろっている。もうちょっと自信を持てると、魅力を訴えていけるといいのではないかな。
- ・女性が輝くというところで、引っかかる。民間企業では社外取締役に女性を起用し、それで東京の東証プライムの基準を満たしているとおっしゃっておられる。一方で課長になる女性はいない。女性がいらっしやっても、課長になりたくないと思われ、そういう企業の雰囲気がある。だから、社外取締役に女性をどんどん起用されるのはいいが、それで女性が輝く企業になってるかというと、そういうことではないのではないかなと思う。

#### 【委員 8】

- ・計画を作ったものが市民になかなか知られない。分厚い冊子を配ってもなかなか伝わらないので、訴求力のあるキャッチフレーズを作ったらどうか。キャッチフレーズを掲げることで、かなり認知度が上がるのではないかな。ぜひそういうことをご検討いただければと思う。
- ・他自治体で、人口減少に対する危機感のフェーズがすごい上がったと思う。各地域でいろんなことを考えていらっしやっており、名古屋市も踏み込んだ具体的な施策をご検討いただければありがたいと思うか、そうしないと埋もれてしまうのではないかなと思う。

#### 【委員 2】

- ・次期総合計画中間案の施策の中に、「バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくりを総合的に進めます」や、「障害者が自立して安心して暮らせるよう支援します」とあるが、実際に不便を感じることもある。障害がある、もしくは、車椅子やベビーカーなど移動がしにくいグループに対して、名古屋はハード面でかなり進んでいると言われるような見直しをあわせてお願いしたい。
- ・給食の無償化という話題が他の都市でも出てきていると思うが、名古屋市の中学校の給食の導入もご検討いただきたい。

#### 【委員 1 2】

- ・ものづくり産業の人材育成を図るということが書かれていて、非常に心強く感じた。名古屋市のイメージは都市でありながらどうしてもどん臭いイメージがぬぐい去れない、これがマイナスになっているとよく言われるけれども、弱みと強みはほとんど表裏一体だと思うので、弱みとい

うかマイナスイメージをしっかりと踏まえて、それを逆手にとるような戦略をもっと出したらいいのではないかと思う。具体的に言うと、ものづくり産業、製造業を中心としたところで飯を食っていくんだというところを、やはり今一度確認していくということは多分必要じゃないかと思う。愛知は文科省の後ろにくっついてやっていけばいいというまちではないわけで、むしろ全国に対して範を示さなきゃいけない。だとすると、職業高校をもっとしっかり支えていく。そこでしっかりした最底辺のところをきちっと支える人材を育成していく。ここに誇りを持ち、こういうことを大事にしていくってことをお願いしたい。

### 【委員 3】

- ・ まんなかビジョンにも記載があるが、スーパーメガリージョンの中核圏域として、東京・名古屋・大阪が一体となって日本を牽引し、リニア効果の北陸等への波及、つまり北陸と名古屋を結びつける米原－敦賀線が非常に大事になってくると思う。